

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

第11回アスリート委員会

1 日時

令和2年2月3日(月) 15時30分～17時10分

2 場所

晴海トリトンスクエアY棟2階 Y2A会議室

3 出席者

<アスリート委員(各委員は五十音順)>

高橋委員長、河合副委員長、池田委員、上山委員、及川委員

齋藤委員、田口委員、萩原(美)委員、不老委員

<臨時委員>

伊吹臨時委員(内閣官房)、岩瀬臨時委員(東京都)

<組織委員会>

森会長、遠藤会長代行、布村副事務総長

伊藤CFO、小林NOC/NPC部長、藤田アクション&レガシー担当部長

4 議事録

○高橋委員長 お待たせいたしました。ただいまから、第11回アスリート委員会を開会いたします。

本日は、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

委員長の高橋です。よろしくお願いたします。

ちょうどもうオリンピックまでいよいよ、オリンピック・パラリンピックイヤーとなって残すところ半年を切ったところです。委員の皆様の中には、最後の選考のところでお忙しい方であったり、またもともとの方々の皆さんの競技の中でも非常に多忙な中、お時間をいただきましてありがとうございます。

そして、来月には聖火リレーがスタートいたします。1964年の東京大会からちょうど50年に当たる2014年10月10日にこのアスリート委員会は21人のアスリートでスタートを切りました。あの日から5年半がたつわけですけれども、東京大会をよりすばらしいものにするために、アスリートの立場からさまざまな意見を皆様にはいただきまして、またさまざまなエンゲージメントの活動に参加をしていただきました。

ワーキンググループ1も、機運醸成のため、皆様には御意見の中から企業と企画するものやイベント、フラッグツアー、そして運動会の審査や参加などをいただきました。また、ワーキンググループ2では、会場、選手村、空港、施設、交通などにアスリートの意見を反映させるための御意見を多数頂戴いたしておりました。この場をおかりしまして委員長として協力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

実は、残念ながらですが、このような形で集まるのは、実は委員会としては今回が最後となります。ですが、まだオリンピック・パラリンピック自体は半年後にあるということで、もちろんむしろここからが一番大切な時期を迎えるのではないかなというふうに思っております。なので、もちろんワーキンググループ1も2もこのまま継続して行いますし、もちろんオリンピック・パラリンピックが終わっても、アスリート委員会として参加をされたことによってつながるレガシーの部分もございますので、これからもずっとアスリート委員会の一員であるということを皆さん胸に持っていただいて活動していただければなというふうにも思っております。

それでは皆さん、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

そして、今回の委員会も記者の方向けにはフルオープンとしております。ムービー・スチールの方には、これまで同様冒頭のみ撮影とさせていただきますので、御了承よろしくをお願いいたします。

本日はお手元の配付の座席表のとおり9名のアスリート委員と、公務の御多忙の中、内閣官房から伊吹企画・推進統括官、ありがとうございます。そして、東京都から岩瀬オリンピック・パラリンピック準備局次長に臨時委員として御出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、森会長から一言御挨拶をお願いいたしたいと思います。お願いします。

○森会長 皆様、御苦労さまです。着座のままで失礼いたします。

今、高橋さんからお話がありましたとおりでありまして、全てきめ細やかにお話がございました。私から申し上げることはほとんどございません。

ただ、皆さんに御紹介かたがた御披露申し上げたいのは、河合純一副委員長が、この1月1日付で、JPC、日本パラリンピック委員会の委員長に御就任になりました。改めて、皆さんとともにお祝い申し上げたいと思います。

それから、田口亜希さんには、まだ正式発表はもうちょっと後なんですけども、数時間後なんですけど、東京大会選手村の副村長に御就任をいただく予定であります。

田口さんには、パラリンピック期間中だけではなくて、オリンピック期間中も副村長でお務めをいただければというふうに希望しております。

アスリートにとりまして最高の場所になりますように、どうぞアスリートのお立場から、選手の皆さん、役員の皆さんを合わせて1万8,000人だそうでありますので、どうぞ頑張っていたいただければというふうに思います。

今、高橋さんからありましたが、3月20日には、ギリシャで採火されました聖火が宮城県の松島の空軍基地に到着します。21日から、宮城、岩手、福島と2日間ずつ復興の火として展示をされます。そして、3月26日には東京2020オリンピック聖火リレーとして、福島県のJヴィレッジからスタートすることになっております。また、この聖火リレーがいよいよスタートいたしますと、日本国内をくまなく走られるわけでありますので、さらにオリンピックもぐっと盛り上がってくるかと思えます。

皆さんにもお忙しいときだと思いますが、委員の皆様の中で御都合のつく方には、ランナーとして全国を走り、大会を盛り上げていただいておりますことにも感謝を申し上げます。

今、高橋さんからありましたけれども、オリンピックが56年目になりますか。10月10日、この日を記念して、このアスリート委員会はスタートいたしまして、5年半もの間、大変御意見をたくさんいただきました。お礼を申し上げる次第です。

そして、何か今回で終わりですか。こういう委員会としてはお集まりになる機会はないかもしれませんが、随時ますます忙しくなると思いますので、何かとまたお呼び立てをしたり、御相談申し上げることが多いと思いますので、よろしく願いいたします。

また、皆さんの御意見が具現化した全国の学校の運動会におけるオリンピック・パラリ

ンピックに関連した取組みを募集します、東京2020みんなのスポーツフェスティバルについては、日本全国からすばらしい取組みの御応募をいただいております。これも委員の皆様様の御協力のたまものだと思います。あわせて、これもお礼を申し上げます。

あと172日であります。どうぞこれからもなお一層御協力をいただきますように。

ちょっと心配なのは、コロナウイルスでございますが、これが早く収束してくれればと、まさに神にも祈るような思いであります。政府にお願いしてもなかなか直るものでもないんですが、伊吹さん、またよろしく頼みます。ありがとうございました。

○高橋委員長 森会長、どうもありがとうございました。

今、森会長からのお話にもございましたとおり、委員会としては今回が最後になってしまいますということで、ぜひ記念撮影をここでしていきたいと思っております。

最初ですけれども、恐れ入りますが、皆様方前方のほうにお越しいただけると。よろしく願いいたします。

(記念撮影)

○高橋委員長 皆様、どうもありがとうございました。この記念写真は後日、組織委員会のホームページに掲載する予定です。メディアの皆さんはもう出ていっていかれてしまいましたけれども、ぜひ今日の記事に御使用ください。

スチールとムービーの方は御退席というふうな案内を申し上げようと思ったんですけれども、迅速にさせていただきましたありがとうございます。

少々お待ちください。

(プレス 退席)

○高橋委員長 では、よろしいでしょうか。これより議事に入りたいと思っております。

お手元の議事次第を御覧ください。本日の議題は四つとなります。

まず、2019年の組織委員会の活動報告をさせていただきますと思います。

事務局より御説明お願いいたします。

○伊藤CF0 それでは、資料1に基づきまして、簡単に昨今の状況について御報告をさせていただきます。資料1、1枚お開きいただきたいというふうに思います。

東京大会の概要については、委員の皆様、既に御案内のとおりでございますけれども、現在、右の下でございます。職員数、この表では3,200となっておりますけれども、1月には3,344となっておりますが、いよいよ大会も近づいてきたということで、この2月からはベニュー化ということで、この晴海トリトンではなく、完成したベニューのほうに少

しずつ職員も移動して、大会準備に向けて取り組むところとなっております。

1枚おめくりいただきますと、競技会場の今の進捗状況でございます。御案内のとおり、左下のオリンピックスタジアム、国立競技場につきましては、昨年の末に完成をし、既に1月1日から大きなスポーツイベント等を実施しながら、その準備を迎え始めているところでございます。真ん中の選手村、これはまだ古い写真で恐縮でございます。予定地ということで、建っていない姿でございますが、御覧いただきますとわかりますように、もう既に立派な選手村が建っております。選手には全国の自治体から木材を提供していただいて製作をいたしましたビレッジプラザのほうも、まだ最終完成ではございませんけれども、概ね棟ができ上がったということで、内覧会もさせていただいたところでございます。

先ほど会長の話にもございましたが、村長や村長代行、副村長のほうも御就任をいただくことが決定したところでございまして、徐々に準備が整っていつつあるというところでございます。

競技スケジュールについては、3-1、またお開きをいただき、次の3-2でパラリンピックの予定を記してございますが、これらの競技を着実に実施するために、テストイベント、昨年の7月からWAVE1という形で始めさせていただきました。現在、WAVE2ということで、10月以降2月まで12競技を実施しているところでございます。春以降は、またWAVE3という形で新しく完成した競技場なども使いながら、テストイベントを実施していく予定でございます。このテストイベントの実施によって、私どももたくさんの気づきの点を学ばせていただきまして、その反映というものを本大会の準備に生かしていきたいというふうに思っております。

その一つが暑さ対策でございます。次のページを御覧いただきたいと思っております。もちろん暑さ対策は、私どもも従前から大変大事だということで取り組んでいたわけですが、実際に会場予定地での夏場のテストを通じて、予想以上に暑いところがどこか、またどのような日陰をこれからさらに増やしていかなければいけないか、また水の補給等を含めて、それぞれアスリート向け、観客向け、大会スタッフ向け等、可能なことはしっかり準備をしようではないかということで、追加対策を今検討し、講じ始めているところでございます。

次に、1枚おめくりをいただきまして、9ページからが聖火リレーでございます。先ほど会長挨拶にもございましたように、3月20日にギリシャから聖火が日本に到着をいたします。その後、3月26日に福島県を皮切りに全国を114日間かけて回っていくわけでございます。

して、まさにこの聖火リレーが始まれば、もう大会が始まったということと一体の大きなお祭りムードになり、そして準備もより一層緻密に詰めなければならないというふうに思っています。

6-2、聖火リレーの関係では、トーチについては既に委員の皆様御案内のとおりでございますけれども、聖火ランナーのユニフォームデザインのほうも決定をいたしまして、聖火ランナーの募集のほうもほぼ決まった段階でございます。

アスリート委員の皆様にも、大変お忙しい中ではございますけれども、可能な限り聖火リレーのランナーとして盛り上げに御協力をいただけないかということで多くの委員の皆さんに御協力をいただけることになりました。この場をおかりして、改めて感謝を申し上げます。

また、その機運醸成の取組みでございますが、次のページを御覧ください。東京2020参画プログラムということで、スポーツ・健康の分野も含め、約14万件を認証したところでございます。東京のみならず、全国各地でさまざまなプログラムが展開をされているところでございます。

その下、12ページ、子どもの参画の部分でございます。この委員会の委員の皆様にも各学校などに足を運んでいただきながら、子どもたちも含めた大会の盛り上がりには御尽力、御協力をいただいているところでございますが、ここに書いてございますように、オリンピック・パラリンピック教育に取り組む学校を「よい、ドン！スクール」という形で認証してございます。昨年12月の時点で1万8,219校認証済みということで、大変多くの子どもたちに御参画をいただいているところでございます。

さらに、1枚をおめくりいただいて、下のほう、10、大会ボランティアのところでございます。大会ボランティアについても既に御報告をさせていただいているところでございますが、私どもの募集をはるかに上回る多くの方々にぜひ協力したいというお手を挙げていただいたところございまして、大会ボランティアとして私どもをお願いする方々、今大変たくさんの方々でございますが、順次研修を初めながら、大会に向けた準備を進めていただいているところでございます。

続いて、また1枚おめくりをいただきたいと思っております。大会チケットにつきましては、チケットスケジュールのところでございますが、オリンピック・パラリンピックとも一次抽選、二次抽選を終えたところでございます。パラリンピックは今まさに二次抽選の受け付けを終えたところございまして、この後、当選をされた方々に御連絡をし、販売にな

るということでございます。オリンピック・パラリンピックとも大変多くの方々に御関心、高い関心をお持ちいただいて、幾ら応募しても当たらないではないかというお叱りを受ける、私どもとしては大変ありがたいという思いと、申し訳ないという思いが入りまじっているわけでございますけれども、国民の大変なる期待というものをひしひしと感じているところでございます。

最後がメダルデザインでございます。メダルデザインにつきましては、これまでもこのアスリート委員会の皆様からさまざまな御意見、お知恵をいただいたところでございます。高橋委員長、河合副委員長にはメダルデザイン審査会のメンバーとしてこの選定に御参画をいただきました。また、田口委員のほうから、さわって区別できるような工夫をという御意見を頂戴いたしまして、パラリンピックのメダルの下のところに二つのポツがございますが、まず、金、銀、銅メダルの違いが触れてわかるよう、メダル側面に円形のくぼみ加工をするというようなこと、さらには、「TOKYO2020」の文字を表面に点字で記載することによって、この飾る部分にもさわって御理解をいただけるようにというような工夫もさせていただいたところでございます。

そのほか、次ページには復興に関する取組み、本東京オリンピック・パラリンピック、原点は復興でございます。聖火リレーのスタートはもちろんでございますが、聖火リレーのスタートに先立ち、先ほど会長からもお話がございましたが、復興の火とし、被災3県のほうをまずいち早くこの火を、聖火を見ていただくというようなことを含めて、さまざまな関連の事業というものの充実を図ってまいりたいというふうに思っております。

以上、雑駁でございますけれども、最近の状況ということで御報告をさせていただきました。以上でございます。

○高橋委員長 東京大会に向けて、着実に、また多角的な準備が進められていることがよくわかりました。また、組織委員会の皆様の発表の戦略などもあって、本当に連日メディアの方々に取り上げていただけることを考えると、これだけオリンピック・パラリンピックよりも前に多くの事柄が皆さんの社会に広げていけるというのは、非常に機運醸成にもプラスになっているのではないかなというふうに感じております。

御説明どうもありがとうございました。

それでは、次の議題2ですけれども、アスリート委員会の活動報告となります。

初めに、2019年のワーキンググループ1、そしてワーキンググループ2の活動について、それぞれ御報告をさせていただきます。

まず、ワーキンググループ1については、私のほうからの御報告をさせていただきます。

資料2を御覧ください。東京2020アスリート委員会によるアンケート調査ということで、外部有識者による検討委員会「東京2020大会選手村メニューアドバイザー委員会」を開催し、専門的な知見や御意見をいただいて、アスリートの満足が得られるようなメニュー案を検討してまいりました。

このメニューアドバイザー委員会では、このアスリート委員会の中でも池田さんや田口さんにも、もちろん私もですけれども、委員として参加をさせていただいたんですが、より多くのアスリートの意見を頂戴させていただくということで、皆様にはアンケートをさせていただき、過去の経験であったり、あつてほしかったもの、なかったことで困ったこと、いろいろな意見で今回の東京大会に反映させていただけるものをいただきました。

委員会のほうでも、非常にその意見というものを重視していただきまして、よりアスリートの皆さんが求めているようなメニューにつながったのではないかなというふうにも感じております。

また、あわせてですけれども、資料はございませんが、JOC、JPCの公式服装選定委員会のほうでも、私自身委員会の班に入っていますが、開会式、団結式、そちらの公式服装の発表はございましたが、あとユニフォームなどについても、皆様の過去の御経験などのアンケートをいただきまして、そちらも反映させていただけることとなりました。こちらのほうもあわせてお礼を申し上げたいと思います。

そして、めくっていただきまして、次ページになります。Sport in Lifeプロジェクトということで、スポーツを行うことが生活習慣の一部になる、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会を実現していく。そして健康で活力ある社会への自治体・スポーツ界・経済界が一体となって国民のスポーツ参画を促進するプロジェクト。みんなでスポーツ参画のムーブメントを広げ、2020年の東京大会のレガシーを創出していくプロジェクトということで、2019年7月1日にスポーツ庁長官の鈴木長官と記者会見を行いました。

こちらのプロジェクトは始まったばかりなんですけれども、第2期スポーツ基本計画の発表もございまして、なるべく多くの方々がスポーツを親しむような社会になってもらいたいということで、このアスリート委員会で以前に意見をいただきました企業の皆様にスポーツを身近に感じていただけるというような取組みですね。NECの事柄を発表させていただきまして、NECの皆さんの会社の中で走るということを根づかせるために、第1回キックオフを田口亜希さんと一緒に行かせていただいたんですけれども、そのキックオフと同



時にNECの中では陸上部ができ上がりまして、毎週そういった取組みが増えていくことによって、会社の中の雰囲気や、また生活の中でも大きな変化があったということの事柄を発表させていただきました。こういった取組みがこのSport in Lifeとともに広まっていて、多くの企業の人たちが始めるきっかけになればいいなというふうに感じております。

そして、次ページになりますが、パートナーとのエンゲージメントということで、パートナー企業17社及び組織委員会から、家族を合わせて総勢約2,000人が集まり、アスリート委員のほか、各企業に所属しているアスリートたちと一緒に、運動会でよく知られている玉入れやリレー等を行って、参加者全員で東京五輪音頭を踊ったといった形で、こちらは今回で2回目ですかね、3回目。毎年、ゴールドパートナーを含めたパートナー企業の皆さんと大いに盛り上がり行っているんですけども、こちらのほうも2019年6月22日に行いました。

こちらは、河合さんや田口さんにも参加をしていただきました。一言感想をお聞かせ願いますか。河合さん。

○河合副委員長 毎年参加させてもらっていて、年々、何というんでしょうかね、企業の皆さんも本気度も上がってきて、ガチリレーとかは本当にけがしそうだなというぐらい真剣に取り組んでいて、でも本当に誰もが楽しめる種目とかも設定されていて、本当に家族の皆さんとかも一緒に来ながら、楽しみながら、また企業内の連携もありつつも、ほかの企業の皆さんとまた交流する機会にもなっていて、非常によい運動会だなと思っています。

○高橋委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、ワーキンググループ1のほうの御報告は終わらせていただきます。

続いて、ワーキンググループ2については、池田委員から御報告をお願いいたします。

○池田委員 皆さん、こんにちは。ワーキンググループ2のほうの御報告をさせていただきます。池田です。よろしく願いいたします。

ワーキンググループ2は、高橋委員長が先ほどお話ししたようなオリンピック・パラリンピックのムーブメントを醸成するような、ポイントは高橋尚子さんがリードをして進めているような形が多くて、私のほうは、どちらかというところ、大会のサービスレベルのチェックだとか、選手の路地回りだとか、運送だったりというところ、あと選手村ですね、居住スペース。そして飲食。そういった各セクションをなるべくアスリートの意見を反映しながら、一つ一つチェックをして、なるべくアスリートが大会開催時にスムーズに大会に参画できる、そして期間中も選手村を活用しながら、いい居住空間で試合に臨んでもらえ

るような、そういったことを活動としてはやらせていただいています。

御報告に移らせていただきます。羽田空港における長大手荷物をどのように選手に引き渡しをするのか、これは羽田空港のエアポートで検証させていただきました。

期間は、2019年2月20日で実施をさせていただきました。

やはり選手のスポーツは結構多様化していて、やはりパラの選手、そしてオリの選手も、バドミントン競技なんですけれども、私はどちらかというと、手荷物で進めるような形がバドミントンの競技だとすると、陸上の競技だったり、車椅子の競技だったり、本当に荷物を預けて、ちゃんと自分のところに帰ってくるのか、それがオリンピック・パラリンピックの期間だと日にちが極端に集中してしまうので、そこでエラーが起きないかというところを重点的に羽田空港において検証させていただきました。

いろいろ議論はあったと思うんですけども、実際アスリートが参画して議論するということがとても大切だと思っていて、活発な議論ができたというふうには思っています。

続いて、6ページに移らせていただきます。続いては、選手村の計画に関するレビューになります。目の前に選手村がもうそろそろ完成すると思うんですけども、既にオリンピック・パラリンピックの開催後、一般の方が住むような応募ですかね、不動産としての取得という方が結構ニーズが多くて、やはりオリンピック・パラリンピック、その後にに関して、一般の方も非常に興味を持ってくれるんじゃないかと思っています。

2019年3月28日に実施して、まだできている棟とできていない棟がありまして、中に入って、いろいろと、ここがどういうふうな棟になって、こういうふうな動線で選手が入場して、どういうところで選手以外の方とコミュニケーションがとれるようなスペースであるとか、いろいろと御説明を受けながら、実際にはこのトリトンの組織委員会の部屋で、選手の居住スペースの壁の色がどうだとか、ベッドの形がどうだとか、カーテン、そして網戸だったり、日常生活では当たり前のことなんですけれども、選手がそこで生活すると、やはり必要なもの、そして不必要なものというものをアスリート委員がチェックさせていただいて、いろいろコスト面だったり、本当にこの壁の色で選手はいい睡眠ができるのかとか、ベッドの形は大丈夫かとかという話を議論させていただきました。私も参加させていただいたので、非常にその辺はアスリートの意見を反映させたような形がとれたんじゃないかと思っています。

続いて、7ページに移らせていただきます。続いては、NOCの選手団の団長セミナーですね。ちょっと私のほうがスケジュールの都合上参加できなくて、ほかの委員、結構多くの

方が参加してくれました。

期日は2019年8月19日に実施させていただきました。大体大会の約1年前に各国の地域のNOCやNPCの代表者を開催都市に招聘して、大会の計画や現在までの準備状況をすり合わせるような形で、多くはいろんな国と地域と、今の現状の東京オリンピック・パラリンピックがどのように進んでいるのかという情報のすり合わせとコミュニケーションがメインだと思っています。

ここで、上山委員が参加してくれたので、ちょっと一言いただきたいと思います。

○上山委員 今、御紹介にあずかりました、委員の体操・トランポリンの上山と申します。このNOCの選手団団長セミナーに参加させていただきました、最初のウェルカムパーティーみたいなものが行われたんですけれども、そのときには東京五輪音頭をその場で皆さんと一緒にレクチャーをしながら教えて、一体感をつくっていくというような形をいたしました。その翌日、モーニングセッションというものを担当させていただきました、朝のちょっと6時半という早い時間帯だったんですけれども、そこで、リオのオリンピックのときにもやられたそうなんです、そういう体を動かして皆さんと一緒に一体感をつくっていくというものを僕が担当させていただいて、そのときにロス五輪、2028年の組織委員会の方も参加されて、有意義な時間を過ごしていただけたんじゃないかなと思っています。以上になります。

○池田委員 ありがとうございます。

続いて、8ページのほうに移らせていただきます。続いては、NPCのほうですね。期間は約1カ月後に実施されたんですけれども、NPCの選手団団長セミナー、趣旨の目的は、NOCの団長セミナーと変わらないと思うんですけれども、ここでは、河合副委員長が参加されたということなので、ちょっとそのときの団長セミナーの印象だとか、気づいたことをちょっとレビューしていただければと思います。

○河合副委員長 ありがとうございます。

この日は本当に台風の大変な日でございます、当日各国から到着できるのかというのと同時に、私も海外出張から帰ってきた日です、たどり着けるのかという中で何とか到着し、このウェルカムパーティーに参加することができたと思っています。

ちょうど9月のこの時期だということで、お月見をイメージしながら、みんなで餅つきをしました。これが非常に盛り上がりました。行列になって、各国のNPCの方々がつき続けて、終わらないんじゃないかというぐらいの盛り上がりだったことは本当に忘れられな

いです。選手村でもやったほうがいいんじゃないかなという意見が出たぐらい盛り上がったところですよ。

そういった中で、本当に各国のNPCの方々となつなごったりする機会にもなつて、非常に盛り上がったいいパーティーだったなというふうに思っています。

翌日、そのまま田口さんと一緒に、先ほど上山さんからあつたようにモーニングセッションのほうをさせていただきまして、その際は同じようにストレッチと簡単なゲームですかね、レクリエーション的にコミュニケーションをとるようなものをちょっとさせてもらつて、盛り上がつて、その後のきつとさまざまなレクチャーに皆さん向かわれたのではないかなと思つています。

以上です。

○池田委員 はい、どうもありがとうございます。

NOCもNPCもそれぞれの団長セミナーということで、双方でコミュニケーションをとつてエンゲージを高めるといふことが非常に大切だと思つています。このように実施できたのも非常にサポートがあるからこそだと思つているので、関係された、サポートしていただいた皆さん、本当にありがとうございました。

最後ですけれども、ワーキンググループ2の活動報告5というところですね。実は、昨年4月に、私と、今日は不参加ですけれども、都合上参加できなかった関根委員で、IOCのアスリートフォーラムに参加させていただきました。

約3日間ぐらい、いろんな研修も含めて、各大陸のアスリート委員だったり、NOCだったり、そして2024年のパリの組織委員会ですね。ローザンヌの、あとは、ユースオリンピックが今年1月ですかね、開催されたと思うんですけど、そこのお披露目とローンチみたいな形も含まれた形で、各大陸のアスリート委員、そしてNOC、そしてオリンピックの組織委員会を集めて、バッハ会長を軸にいろいろとフォーラムの中で議論させていただきました。

私がいろいろと担当したのもあるんですけど、特に印象に残つたのは、アスリート委員の中で、大陸に分かれて各ミーティングをさせていただきました。国によつて、どういふことが課題なのか、今後スポーツがどういふふうに進展しなくちゃいけないのかといふのをアスリート委員の大陸枠に分けて議論をします。大陸枠から出た議題を次は総合的にディスカッションして、スポーツがどういふふうな形で今後、2020年、そして2024年、そしてその次へとバトンパスをしたらいいのかといふのを議論させていただいたのが非常に

印象的でした。

あと、アスリート委員も含めて、IOCのアスリートフォーラムで関わった人全て、ネームのタグとそしてUSBを渡されたんですね。このUSBのタグには電子パネルのようなチップが内臓されていて、その渡される前に自分の名前と性別とメールアドレスとあとbioが中に書かれたものを中に埋め込んでありました。そのbioを各国の人、誰でもいいんですけども、IDを、チップを、手の形をしているんですが、このチップをほかの国の方とタッチすると、実はそこで光って、お互いのプロフィールが交換されると。なので、無駄にメールアドレスを聞いたり、今はフェイスブックとかインスタグラムとかソーシャルメディアで個人と個人がつながるといのはあるんですけど、オフィシャルでつながるといのはなかなかないと思うんですね。名刺の文化は結構日本が根強いんですけども、そういった形でいろんな国とコミュニケーションがとれるというところが、非常に私は参加しておもしろかったというのと。

あとはフォーラムでバッハ会長が2時間半のQAの時間をとったんですね。2時間半バッハ会長が各国のいろんな方から、アスリート委員の方から質問をされると。それにトピックスに書いて、全て立ったままいろんな国の方に丁寧に一つ一つ質問を返していくというところが非常に印象的で、一つ一つ丁寧にアスリート委員の課題だとか地域の課題だとかというのを解決していく姿は非常に感銘を受けました。

そういった形で、IOCアスリートフォーラムに参加させていただいて、非常に東京オリンピックの熱というの、周りが期待されているなというのと、次はパリに向けて、LAに向けて、非常に多くの方が注目されているような形が肌で感じる事ができたので、東京2020オリンピック・パラリンピックも非常に役割としては大きな役割を担っているんじゃないかなというふうには思いました。

報告としては以上です。

○高橋委員長 池田委員、そして上山委員、そして河合副委員長、ありがとうございました。

以上、最新2019年の活動報告をさせていただきました。

引き続き、第1回からこれまでのアスリート委員会の活動などを振り返ってまいりたいと思います。

事務局のほうで資料をまとめていただきましたので、御説明のほどよろしくお願いたします。

○藤田部長 はい、それでは御説明させていただきます。

資料の11ページを御覧いただきたいと思います。

このアスリート委員会は、11回の委員会の活動だけではなく、ワーキンググループ1、ワーキンググループ2に分かれて、さらに活動をいただいております。ワーキンググループ1では、大会エンゲージメント、アクション&レガシーの推進、それからワーキンググループ2では、大会準備運営と大会サービスへの示唆、いろいろな御意見、活動をいただいております。

12ページから御覧いただきたいと思います。ここから、第1回から第10回の委員会の内容を記しております。

第1回は、2014年10月10日でありました。

めくっていただきまして13ページ目、第2回のアスリート委員会では大会開催基本計画を御承認いただいております。

それから、第3回から第6回、14ページから17ページで、集中的にアクション&レガシープランの御検討をいただいております。この第4回、15ページですが、ここで高橋委員長に御就任をいただいております。

飛びまして、18ページ目でございます。第7回のアスリート委員会でございます。こちらのほうでもアスリート委員会の活動方針等々御討議を進めさせていただいております。

それから、19ページの第8回のアスリート委員会でございます。ここで先ほどお話がございましたけれども、パラリンピックメダルには大会史上初めて金、銀、銅で触れて違いがわかる仕様の採用について御意見をいただいたところであります。

それから、第10回のアスリート委員会、ここで、ちょうど1年前ですけれども、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、それから、今日の議題でございます東京2020みんなのスポーツフェスティバルの御承認をいただいたところでございます。

続きまして、委員会の活動とは別に、ワーキンググループ1のほうの御説明もさせていただきます。

先ほど申し上げましたとおり、大会エンゲージメントの活動を中心に行っていただいております。まず、その大きなものがライブサイトと、それからフラッグツアー、それから、パートナーとの連携といったところになります。

23ページ目からがライブサイトでございます。24ページ目でございます。このような形でリオの期間中にライブサイトを開かせていただいて、河合副委員長、田口委員、萩原委

員、齋藤委員に御参加をいただいているというところでございます。

めくっていただきまして、25ページ目はこれは平昌の期間中にライブサイトを開かせていただいて、アスリート委員の方にも多数御出席をいただいているというところでございます。

めくっていただきまして、フラッグツアーは26ページ目からでございます。2016年10月8日からスタートしまして、2019年3月30日までフラッグツアーがございましたけれども、延べ21名の委員の方に御参加をいただきました。一つ一つ御説明をする、ちょっと時間がないので割愛しますけれども、27ページ目の被災3県のこのフラッグツアーからスタートしまして、多くの委員の方に御参加をいただいております。とりわけ40ページ、フラッグツアーの中でも、小中学校の訪問のイベント等もございまして、こちらのほうも40ページ、41ページ、42ページで御紹介いただいているとおりで、小学校や盲学校などもございますが、多くの学校に御訪問いただいて、いろんな活動をしていただいたということでございます。

続きまして、43ページ目でございます。東京マラソン財団と協定を結びまして、いろんな連携をしているわけですがけれども、その中にオリンピック・パラリンピックムーブメントの推進及び東京2020大会を通じたレガシー創出と継承に関する連携というものがございまして、2016、2017、2018年の東京マラソンにおいて、トークショーを初めとしたいろんなイベントを開催させていただいたということでございます。こちらのほうにも多くの委員に御参加をいただいて、御協力をいただいております。

それから、47ページでございます。先ほど高橋委員長のほうからもお話がございましたが、大会パートナー、NECさんを初めとしたいろんな企業様と御連携した取組みが48ページ目、49ページ目、50ページ目、51、52ページ目と掲載されています。53、54ページ、ずっとこれだけ多くのパートナーの方々と一緒にいろんな事業の連携をさせていただいていることがおわかりいただけるかと思えます。

最後に、57ページを御覧いただきたいと思えますけど、その他ということで、本当にこの資料以外にもいろんな活動をしていただいております。58ページ目のこの「みやぎアスリート2020」の指定書交付式にアスリート委員に御参加いただく、それから、平昌オリンピックの聖火リレーに御参加いただく、それから、やまなし大運動会にも2018年、2019年に萩原智子委員に御参加をいただくなど、いろんなその後、61ページ目、算数ドリルのプロジェクトの公開授業にも高橋委員長にも御参加いただいているという、本当に多種多様な御活動を委員会で推進していただいております。

とりあえず、ワーキンググループ1の御報告は以上とさせていただきますして、ワーキンググループ2の説明のほうに移らせていただきたいと思います。

○小林部長 それでは、NOC、NPC部の小林です。私のほうから、ワーキンググループ2の活動について、2016年からの振り返りをさせていただきますと思います。

まず、ワーキンググループ1とワーキンググループ2が分かれて活動を始めたのが2016年7月からになります。2016年1月にIOCのアスリート委員会、それとロンドンのアスリート委員会の代表をした方が来まして、ワークショップを開催いたしました。それを契機にして、アスリートサービスを考えるアスリート委員会の活動というものを検討し始めたところでした。

最初にワーキンググループ2が取り組んだ活動としまして、その夏のリオの大会で実際に参加した日本の選手団、オリンピック・パラリンピックのチームに彼らの大会の経験を確認しようということで、アスリート委員会からアンケートを実施いたしました。そして、組織委員会の計画策定、そして検討のプロセスに参加いただくという取組みを進めてまいりました。

めくっていただきまして、66ページ。実際にリオの大会に参加された委員の方たちもいらっしゃるって、選手村を見ていただいた感覚、それが実際に参加した選手たちの感覚と、検討するに当たって、それを確認していただくというような動きになっております。

2016年そして2017年にかけて組織委員会の計画検討の会議に何回も参加いただきまして、その中で食事ですとか選手村などのサービスを担当する部門と具体的な検討をいただきました。実際に、先ほどの池田委員からの説明にもありましたけれども、空港に行っていたりとか、実際に選手村のコーチをしている現場に行ってください、そのほかにも、70ページを見ていただきますと、国立スポーツ科学センター、いわゆるJISSのスポーツチームを視察したりと、いろんなところで実際の方も足を運んでいただいて、そこで組織委員会のスタッフの理解を進めるサポートをいただきました。たまには、会場視察する中で、雨の中を歩いていただくとかというようなこともありまして、本当にアスリート委員会の皆様には御協力と御苦勞をいただいたということで、ここで改めて感謝の意を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

それで、特にやはり選手は、大会のときに自分たちが滞在する選手村の計画というのがやはり一番の心配事になってまいります。そういったことで73ページ以降を見ていただきますと、選手村の計画に関するレビューということで、選手村のチームとはかなり頻繁に



いろんなミーティングを開催しまして、そこに参加いただきました。

74ページを見ていただきますと、アスリート委員会のコメントをいろいろといただきまして、生かしてきた計画等もございます。

一番は、選手たちが安心・安全に大会中滞在して、そこで生活できる環境をつくるというところで、アクセシビリティですとか、あと選手が安心して滞在できる環境、先ほどのカーテンの話もありました。あとバルコニーの間仕切りとか、あと実際に選手たちがリラックスして滞在できる環境づくりというところにも意見をいただきまして、例えば、緑豊かな公園の中にベンチを設置して、選手たちがリラックス、そこでほかの選手たちも交流できる、リラックスできるというような環境をつくっていただくというようなところにアドバイスをいただいております。

また、この夏の大会のときには、田口委員も副村長として参加いただく予定ですし、また、河合副委員長にもJPCの委員長、そして最近選手団長として参加されるというふうにもお聞きしておりますので、またアスリートの、自分たちの選手団の視点からまた御意見をいただければと思います。

また、池田委員からの御報告にもありましたけれども、各国の選手団、NOC、NPCが東京に来たときに実際に一緒に会っていただいて、彼らとの意識合わせと意見交換ということも行っております。

過去にOpen daysと言って、NOCやNPCが東京に来る機会に実際に会場視察へ同行いただいたりとか、あと去年の夏の選手団長セミナーのときにはレセプション、そして選手団との交流の中で、アスリート委員会は積極的に活動していると、参加しているというところを、東京の計画がアスリートと一緒につくられているというところをしっかりとアピールできたのではないかと考えております。

以上、駆け足ではありましたが、アスリート委員会、ワーキンググループ2の報告になります。ありがとうございました。

○高橋委員長 ありがとうございました。スピーディな御報告をありがとうございます。

ちょっと皆さん、肩の力をぐっと抜いていただいて、非常に焦った状態での進行になっておりますが、ちょっとほっとされた状態で。アスリート委員会の皆さんが、本当にさまざまな取組みの中で御参加、御協力をいただきました。それぞれがアスリート委員の代表として取り組んでいただいたと思うんですけれども、やはり、ほかの方がしてきた取組みを知ることによって、また再確認ができることも多いと思います。

今回、最後ということで、これまでの活動を振り返って、皆様から一言ずつ御感想といただければなというふうに思っております。

齊藤委員から一言ずつお願いしてもよろしいでしょうか。

○齊藤委員 ウェイトリフティングの齋藤と申します。

私はワーキンググループ1のほうに関わってきました。さまざまな場で活動をさせていただいたのですが、特に印象的なのは、子どもたちと触れる機会をつくっていただけたことです。子どもたちが本当にオリンピックに対して夢を持っているという姿を間近で見ることができました。ミライトワやソメイティに大興奮している姿も見られたことは本当に今も鮮明に覚えていることです。それがきつとあと半年間、またさらに大きくなってつながっていくということで、委員会としてはこれが最後かもしれませんが、今後もアスリート委員として活動していきたいなというふうに思っております。

○高橋委員長 ありがとうございます。

それでは、及川委員、よろしくお願ひします。

○及川委員 車いすバスケットの及川です。

僕はワーキンググループには参加していないんですけども、平昌のオリンピック・パラリンピックで聖火リレーをさせていただきました。

貴重な体験をさせてもらったのもそうですし、聖火を渡す相手がブブカさんでして、ナイスジョブと言われて感動して、いい思い出になったのですが、より、その聖火を持ち帰って、所属企業だったりとか、いろんなところでその聖火を持っていくと本当に喜んでいただいて、企業の中ではもう全国支社を全部回って、みんなでムーブメントをつくらうということで、聖火が大活躍してくれたというのが何しろ印象的です。

車いすバスケットボールでは僕はチームに関わってしまして、やっぱり皆さんの取組みで、やっぱりパラリンピックを知っている方が本当に増えたなというふうに思いますし、いろいろと声をかけてくれたりとか、本当に車いすバスケットボールを応援してくれるファンが増大して、さらに緊張する日々ですが、それをみんなに知ってもらおうというのが、何しろ一番最初のアスリート委員会で僕は言ったことだと思うんですけど、とにかく多くの人たちに知ってもらおうことが何しろ大事だということをお伝えしたと思うんですけど、それが確実に実現しているというのはひしひしと感じておりますし、我々チームの背中を押してくださっているのは間違いありませんし、いい結果が出るんじゃないかなというふうに楽しみにしています。

本当にこのアスリート委員会のおかげだと思っていますので、大変感謝しております。  
ありがとうございました。

○高橋委員長 今日も非常に練習のスケジュールが厳しい中、御参加いただきましてありがとうございます。

さあ、そして、上山さん、お願いいたします。

○上山委員 そうですね、アスリート委員に参加させていただいて、僕自身はワーキンググループ1、2、どちらも参加させていただきまして、ワーキンググループ1では、ゴールドパートナーの方々、会社の方々とは協力させていただいて、イベントでトランポリンを飛ばせていただいたり、「1 Year to Go !」の企画にも参加させていただきました。

また、ワーキンググループ2では、先ほどありましたNOCの選手団団長セミナーにも参加させていただいて、このアスリート委員に入らなければ経験できないようなことをいろいろとさせていただきまして、僕自身すごく感謝しております。

また、これが終わりではなくて、またこの東京オリンピック、また、その後もこのままレガシーとして継承できるように、何か力添えできることがあればやっていきたいと思っていますので、皆さん、また今後ともよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○高橋委員長 ありがとうございます。

では、池田委員、よろしく申し上げます。

○池田委員 僕個人的にはワーキンググループ2のほうをリードさせていただいたので、どちらかというと、アスリートがパフォーマンスするために必要な環境を整えるということがわかりやすい言葉だと思うんですけども、オリンピック・パラリンピックが東京でやって、こういうワーキンググループ2の裏側を見させていただいているというのは、非常に光栄だなというふうには感じております。

また、こういうものが、きっと各IFが大会で何が残ったのかとか、どういうふうなオペレーションをしていたのかとか、オリンピックにひもづいて協議をすると思うんですけども、やはり選手の輸送だったり物流だったり、あと居住スペースだったり、もっともところIFにもう落とし込んで、いいレガシーを残せるんじゃないかなというふうには思っています。

バドミントン競技でも年明けに事故があったり、もう少し選手に配慮したような形のオペレーションができるのであれば、ああいうふうな事故は起きなかったというふうには間

違いなく思っているので、こういうふうなオリンピックのオペレーションが、IF、各種目のIFにはある程度スタンダードのベースを築く、リードしていく、その反映させるということがとても大切なんじゃないかなというふうにも。やっぱりアスリートあつてのオリンピックですし、アスリートがいいパフォーマンスをして、やはりその自国が盛り上がり、大会の参加する国が盛り上がり、スポーツでやはり大きな社会課題を解決するというのが非常にオリンピックのすばらしいところだなというふうに思うので、これはゴールではないと思っていますし、どういうふうな形だったとしても、次につながるようなバトンをつくれればいいのかなというふうには思っています。

以上です。

○高橋委員長 ありがとうございます。

それでは、田口委員、よろしくをお願いします。

○田口委員 パラ射撃の田口です。

そうですね、今日、資料、これだけすごい資料をつくっていただいて、ありがとうございます。2014年の10月10日、このアスリート委員会第1回に参加させていただいたときは、これから何が起きるのか、自分がどういう役割を果たしていくのかわからなかったんですけども、私は結果的に見させていただくと、ワーキンググループ1、2ともにいろいろ関わらせていただきまして、やはり自分たちが経験したオリンピック・パラリンピックで、それぞれのアスリート委員がそれぞれの競技でいろんな形で関わってきたり、経験したことを言わせていただける場があったというのを、私はすごくよかったかなと思いました。

いいところはやっぱり東京でもやりたいし、ちょっと今までよくなかったなと思ったのは東京で改善できたらいいかなとか、そういうような意見を言わせていただいて、組織委員会の方々とも、たくさんの方々に関わらせていただきまして、時にはすごく生意気なことも言ったと思うんですけども、そういうのも皆さんがいろいろと工夫したり、検討したりしていただいたというのは、すごくこの資料を見ても思いましたし、きっと2020年の今年ですね、オリンピック・パラリンピックを見ると、またもっと実感できるのかなというふうに思います。

皆さんがおっしゃっているように、今日の会で会は終わりですけども、この後、やっぱり本番がやってきますので、それまでもきっといろんなことが出てくると思いますので、やっぱり私たちはアスリート委員として、いろんな細かな部分、大きな部分もそうですし、細かな部分も私たちは見ていって、いろいろと皆さんとつくり上げていきたいと思えます

し、あと、次のパリ、そしてロスにどういうふうにバトンをつないでいくかというのも、しっかりと私たちが経験したこと、反省も含めてつなげていけたらと思います。

ありがとうございました。

○高橋委員長 ありがとうございます。

萩原委員、よろしくお願いします。

○萩原（美）委員 バスケットの萩原です。よろしくお願いいたします。

そうですね、もう本当に5年半という月日がたったんだというのは、本当に感慨深く聞いておりました。それから、この報告書ですね。本当に細かく、まあ、私自身が参加したことを、ちょっともう忘れてしまったようなことまで本当に細かくつくっていただいて、非常に感謝しております。感激しました。

この5年半の中で、アスリート委員の方って、現役でプレーしていらっしゃる方、現役でチームに関わっていらっしゃる方、それから、もちろん現役選手を退いても、普段とっても多忙でお忙しい方々がたくさん名を連ねていらっしゃるわけですが、その中で、私が非常に印象深いのは、2年前、3年前ぐらいでしょうか、アスリート委員会が何かだんだん盛り下がってきているという話を、アスリート委員会の中のエンゲージメントというのがなかなかうまくとれていないんじゃないかというお話を高橋委員長を中心にされていた時期がありまして、多分、ここの会場だったと思うんですけど、高橋委員長と田口委員と、ここのロビーですよ、何か1時間ぐらい、そう、どうすればこのアスリート委員会、みんなが主体性を持って関わってくれるんだろうというお話を熱く、本当に立ったまま1時間ぐらいしたことを覚えております。

その中では、私もやはり、私がやらなくても有名なアスリートの方々が誰かやってくれるだろうと、どこか何かそういうちょっと無責任な考えを持って関わっていたこともあったなというふうに、そのとき改めて反省したんですけれども、その中でも、やはり自分がしっかり、この東京オリンピック・パラリンピックに対して責任を持って、元アスリートとして関わっていくんだというような責任感というのも改めてそこでは持たせていただきましたし、また、その自分がここで発言したこと、それから意見を取り上げていただいて、ワーキンググループ1や2の中で一生懸命その実現をしていただいたということに対して、非常に感謝をしております。

また、池田委員、それから高橋委員長、田口委員、皆さんおっしゃっていましたが、これからも本当に私たちの仕事というのは、この委員会が終わって終わるというもの

ではないと思いますので、そういった責任感を持って、これからも関わり続けていきたいなど、最後までしっかり見届けていきたいなというふうに思います。

ありがとうございました。

○高橋委員長 ありがとうございました。

では、不老委員、よろしくお願ひします。

○不老委員 クレー射撃の不老でございます。

ワーキンググループ1に所属しておるわけでございますけれども、私が一番気になって興味を抱いたのは、実は地元のフラッグツアーに出ました。福岡でございますけれども。あらかじめ先生たちが、子どもたちに自国開催ということでいろいろ教育はしてあったと思うんですけれども、子どもたちの興味津々のその模様が、私にオリンピックの内容等を非常に質問されたわけで、そういうことをいろいろと説明する中に、子どもたちのこのオリンピックに対する意識の高揚と申しましようか、非常にわかり合ったことが出たと思うんですよね。これが非常によかったですと思っています。

それから、企業とのボッチャゲームを行いまして、その場でもいろいろとオリンピックの内容等を説明することができまして、この汗が非常にいいものとなったわけでございまして、この東京のオリンピックを非常に楽しみにいたしております。

以上でございます。

○高橋委員長 ありがとうございました。

河合副委員長、よろしくお願ひします。

○河合副委員長 ありがとうございました。

私も、ワーキンググループ1、2ともに参加することが多くて、それぞれにいろんな思い出があるなと思っております。

ワーキンググループ1では、それこそフラッグツアーも行かせていただきましたし、ポスターとか、そういった感じで学校を訪問させてもらったこともありましたので、そういったものを通じて、本当に多くのことを気づかせてもらって、また、私自身も勇気をもらって、本当にこの大会を成功させるために、しっかりと意見を伝えながら、一緒に汗をかいとこうと気持ちを新たにしたいなと思っています。

ワーキンググループ2では、やはり田口委員がいつも車椅子の視点を持ちつつ、私自身がやっぱり視覚障がい視点で、いろいろなこういう困ったことがあるんじゃないとか、選手村、会場を含めていろんな意見をしたことに対して、真摯に事務局の皆さんや関係者

の皆さんと意見交換をする中で、本当によりよい選手村、準備が今は進められているのではないかなというふうにも実感を持っているところです。

もう本当に今から、そういったところで選手たちが活躍できる様子をサポートできるのが今は楽しみだなというふうには思っております、本当に選手村のチームにいろいろと、私が当然見えないので、地図とかを印刷するだけではわからないところを、本当にテープとか糸とか、いろんな素材を使って、紙の上で触ってわかるように位置関係を、建物とか道とかの関係性をわかるようにしてもらったりしながら、それでも河合の意見というか、視覚障がいのある人たちに、どうやってこの村を使いやすくして、いい大会にしたいかという思いをすごく感じることができました。

本当にいろいろとありがとうございました。

○高橋委員長 皆様、どうもありがとうございました。

それぞれの立場で関わっていただいたことを大変感謝いたします。

このアスリート委員会というのは、健康とスポーツということが軸になっていまして、観る・する・支えるといったことでは、子ども、家族、企業と本当に近い存在で活動してきたのかなと思います。

アスリートというオリンピック・パラリンピックの象徴的な存在の皆さんが参加をされることで、非常に多くの方々に興味を持ち、また笑顔につながっていったのかなというふうにも感じています。

私は、先ほど萩原委員がおっしゃったように、私自身は委員長として、本当に多くの人たちをまとめる力不足だったなと反省するようなところが非常に多いのですが、まだまだあと終わりではないですから、あと半年間、しっかりと全力を尽くしてまいりたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

そして、本日の御意見も踏まえて活動報告を作成していきたいと思っております。委員の皆様、引き続き御協力のほど、よろしく願いいたします。

さあ、続いて、議題3の東京2020みんなのスポーツフェスティバルについて、まず事務局のほうから説明のほど、よろしく願いいたします。

○藤田部長 それでは、説明させていただきます。

お手元の資料3の東京2020みんなのスポーツフェスティバルのほうを御覧いただきたいと思っております。

まずは、本当にこの審査に当たりましては、アスリート委員の皆様にご協力をいただき

ました。先ほど、委員会に先立ちまして、ワーキンググループ1で秋の審査を行って  
おりましたけれども、本当にありがとうございました。

また、田口委員におかれましては、春のほうの表彰式にもお手伝いをいただきまして、  
本当にありがとうございました。

この事業ですが、改めて申し上げますと、全国の学校を対象に運動会等でのオリンピッ  
ク・パラリンピックに関連した取組みを公募して、そして審査の上、優れたものを表彰、  
そして公式サイト等で公表する企画でございます。

目的はここにあります3点でございます。一つは、オリンピック・パラリンピック  
の価値・意義を子どもたちに学んでいただく、そして東京2020大会への参画意識を高めて  
いただく、そして何より、この学校の運動会の新たなプログラム等を通じてオリンピッ  
ク・パラリンピックの精神や競技に触れる機会、これをレガシーとして創出していきたく  
い、こういう目的でございます。

主催はここにありますとおり、もちろん組織委員会、そしてアスリート委員会ですが、  
後援団体として、スポーツ庁様、日本オリンピック委員会様、日本スポーツ協会様、日本  
障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会様の後援をいただいて実施をしており  
ます。

春の運動会のスケジュールは御覧のとおりですが、秋の運動会につきましては、今は審  
査中でありまして、3月初めに公表したいというふうに思っております。

4番目、審査・表彰ですけれども、アスリート委員会及び後援団体の方々によって応募  
の件数の中から10件の優秀賞を選んで表彰するとともに、副賞として特製のバトンを差し  
上げると、こういうことになっております。

2ページ目、この春の運動会の応募結果について御報告申し上げます。

応募件数、80校から応募いただきました。80校から125のプログラムが申請されていま  
す。そのプログラムに参加した延べ人数は2万2,000人になっております。

この円グラフを御覧いただいておりますとおり、小学校の応募が多いんですけれども、  
いろんなカテゴリーの学校から御応募もいただいておりますし、23都道府県から応募もい  
ただいております。ちなみに、競技会場のある10都県からは全て応募をいただいております。

めくっていただきまして、3ページ目が優秀賞の結果でありまして、とりわけ東京2020  
アスリート委員会賞として山梨学院小学校が選ばれております。ほかの賞は御覧のとおり



であります。

めくっていただきまして4ページ目、私立山梨学院小学校にて、アスリート委員会賞の表彰式を実施させていただきました。去年の10月28日、田口委員に小学校のほうに行っていただきまして、表彰状の授与と、それからリレーバトンの授与、それから小学生の皆様にも少し講演をさせていただいたと、こういうことでございます。

以下5ページ目以降は、優秀校の学校の取組みを記しておりますので、お時間のあるときに御覧をいただければとに思っております。

説明は以上でございます。よろしくお願ひします。

○高橋委員長 ありがとうございます。

続いて、私のほうから、審査を行ったアスリート委員会を代表して講評と申しますか、コメントをさせていただきたいと思ひます。

この東京2020みんなのスポーツフェスティバルは、私たちアスリート委員会のアイデアが具現化されたものとなります。

アスリート委員会では、学校の運動会は子どもたちにとって最も身近なスポーツイベントであつて、たくさんの競技が行われることから、ミニオリンピック・パラリンピックとも言えるスポーツイベントではないかというふうにかへたところかです。

その運動会をかへじて、楽しみながらオリンピック・パラリンピックの意義や価値を学んだり、よりスポーツをかへしむことができないか、そういったことを目的にかへめたプロジェクトとなります。

プロジェクトは、2019年の春と秋の2回の運動会を対象として、日本各地から創意工夫をかへらした運動会プログラムをかへ応募いただき、アスリート委員会が審査をかへ行いました。

審査をかへじて、学校にかへよつてさまざまな創意工夫があると非常に感心いたしましたし、今日のかへこの委員会のかへ前に、ワーキンググループ1で秋のかへほうの審査をかへさせていただいたんですけれども、本当にその取組みにかへ驚かされていることが多く感動いたしました。

また、運動会のかへ本番だけではなく、事前学習をかへ行って、オリンピック・パラリンピックのかへ歴史や意義・価値をかへ学んだ学校も非常にたくさんございました。

審査のかへ際、我々アスリート委員会がかへ特にすばらしいなというふうにかへ感じたことは、運動が苦手な子でも、例えば準備活動のかへ際に得意なことをかへ生かして主体的にかへ運動会にかへ関わっているところでもあります。

スポーツは、学ば・する・観る・支えるというふうにかへ関わり方があるというふうにかへ言われて

いますけれども、もちろん運動会も、するというだけではなく、このような多様な関わり方ができるということに気づかされました。

運動会のこの多様な関わり方というのは、まさにオリンピック・パラリンピックの価値や精神を体現しているものなのではないかなというふうにも思っております。

御応募いただいた学校の皆様、本当にありがとうございました。

また、このプロジェクトオリジナルマークを運動会のプログラムなどに御使用いただいた学校も本当にたくさんございました。残念ながらこのプロジェクトというのは2019年限りということですが、御応募をいただいた学校の中には、今後、さらにこのプログラムをパワーアップさせて、継続していきたいという御意見もたくさんいただきましたし、また、優秀校の取組みを参考にさせていただける学校が増えていければなというふうに思っております。

このプロジェクトをきっかけに生まれた運動会のプログラムが、東京大会後に学校のレガシーとして残ることを、これから期待していきたいと思っております。

それでは、続いて、アスリート委員会賞を受賞した山梨学院小学校の表彰式に田口委員が参加をしていただいていると思うんですけれども、当時の様子などをぜひ御報告いただければと思います。

○田口委員 ありがとうございます。

この山梨学院小学校は、もともとが、そもそもが、多分、子どもたちが主体的に動くことを目的としている、ですので、勉強だけじゃなくて、いろんな自分の得意なところを生かすよという、そもそも学校の方針がありまして、もう校舎からちょっと変わった形の校舎だったりして、音楽が得意な子とか、あと、教室がないんですよ。教室の壁がなく、みんながこうフリースクールみたいな形になっている学校だったのですね。

私も伺いまして、それまではこの応募資料だけで確認はしていたんですけども、実際に行くと、本当にチームにそれぞれ今回は子どもたちが分かれまして、それぞれでその運動会をつくり上げようというんですけども、それが、その1チームに1年生から6年生までが入っているんですよ。だから、低学年の子を助けるお兄さん、お姉さんとか、お兄さん、お姉さんに助けてもらう子どもたちとか、そういうふうにやっています、プログラムだけじゃなくて、音楽とか効果音とか、そういうのも全部子どもたちで選んだというふうに聞いています。

そして、今回、このプロジェクトがあるから、こういうのをやったのかなと思っていた

んですね、1964年のオリンピックを勉強してそれでやったんですと言っていたので、やったのかなと思っていましたら、このプロジェクト発表の前、ですので、前年には古代オリンピックを勉強して、それで運動会をしていたそうなんですね。ですので、多分、このプロジェクトの意識してはいなかったけど、ここにすごく合致していた学校だったのではないのかなと思います。

このプロジェクトを皆さんで考えるときに言っていたのが、先生に言われてから、言われたからやるのではなくて、子どもたち自身が考えて、自分たちで考えてアイデアを出した、そういう学校がいいですね、そういう取組みをやってほしいですねと言っていたんですけれども、まさに、この学校は子どもたちが主体になっていて、先生たちはあくまでもフォローするという形でした。

ちなみに、今年というか、2020年は、2020年オリンピック・パラリンピックの勉強をしてやると言っていたので、何かまた来てくださいと言われていましたので、もしアスリート委員の皆様、お時間があれば、5月ですので一緒に行かせていただけたらなというふうに思います。

報告は以上です。

○高橋委員長 どうもありがとうございました。

ほかの委員の方にも、審査でよかった点を伺っていきたいと思うのですが、本当は全員にお聞きしたいのですが、代表して、上山委員と齋藤委員にお話を伺いたと思います。

上山委員、よろしくお願いします。

○上山委員 兵庫県の加古郡稲美町立母里小学校というところの採点をさせていただいたときのコメントなんですけれども、近年、その安全面の配慮から、小学校に来校する人というのは結構制限されがちなんですけれども、この小学校では地域住民の参加を募って、地域の一体感の醸成を図っているといった点、また、年齢、その参加者の中には高齢の方もいらっしゃるんですけれども、そういう年齢だったりとか性別関係なく参加できるように、シッティングバレーボールの要素を取り入れた競技をした点が素晴らしいと思いました。

○高橋委員長 ありがとうございます。

では、齋藤委員、よろしくお願いします。

○齋藤委員 私は、17ページ、18ページにあります広島県の府中中学校を高く評価をいたしました。

理由としましては、全員が参加をしている点と、あと独自性ですね、競技、ハンマー投

げ・サッカー・パシュートというオリンピックの種目を勉強した上で、みんなが楽しめるようにルールや競技を工夫したというところを高く評価をいたしました。

それから、一心同体というスローガンを掲げて、それをカードでつなぎ合わせるという、その運動会に向かって、みんなをエンゲージしていくという姿勢にも引かれました。

○高橋委員長 ありがとうございます。

この委員会の前に、ワーキンググループで秋のほうの審査をさせていただきましたけれども、やはり、子どもたちが主体性を持って、事前学習をするであったりとか、オリンピック・パラリンピック両方ともに興味を持って勉強するであったりとか、東京だけではなくて、やはり地方の方々も参加をしてくれるといった、地域の人たち、また子どもたちだけではなく、教員の方、多くの人たちが参加をする、いろいろな観点を見ながら、また評価をさせていただいております。皆様、ありがとうございました。

では、最後に河合副委員長のほうから、全国の学校や先生方に向けたメッセージをお願いできますか。

○河合副委員長 大分、ハードルが上がった感じなのですが、ありがとうございます。

本当にアスリート委員の皆さんと一緒に作り上げたもの、そして、一緒に評価をさせていただいたりして、今回の春の場合であれば、10校の優秀校のうち3校が特別支援学校が入っているなど、やはり、このオリ・パラ一体と森会長が常々おっしゃっていたことが、本当に全国各地、老若男女に届いていることを痛感したなと思っていますし、すごくよいムーブメントになっているというふうに思っています。

とりわけ、パラリンピックというのは、当然、障がいのある方々のスポーツの祭典ですので、できないとか、うまくできないものをどう工夫するかとか、そういう視点がある中に、多分、運動の苦手な子とか、なかなか好きでない子とかも含めて、この運動会というものを楽しむきっかけに、その視点が効果的に機能していたらよかったなというふうに思っていますし、そういった取組みが表彰されることになっていたのではないかなというふうには思っています。

そういった点からも、このプロジェクトそのものが次年度以降にという形では、組織委員会もなくなりますので、続かないわけですが、こういったムーブメントをしっかりと教育の中に、学校教育の中でまた位置づけていただいて、誰もがやっぱり楽しめる、こういったスポーツのイベントとかという視点で、これからも、そして、子どもたちが主体的に考える、実行するという、こういったものにつなげていただけるとうれしいなとい

うふうに思いました。

きっと、今年の夏に本物のオリンピックやパラリンピックを見たり感じたりすることで、また新たな発想とか、アイデアがまた浮かんで、今年の秋以降にそういったものがまた反映されて、取り組まれていくといいなというふうに思いますので、こういった活動を、また何らかの形で取り組みを継承できていけるといいなというふうに強く思いました。ぜひ、先生方、頑張ってもらいたいと思います。

○高橋委員長 もちろん、参加をされた皆様の学校もそうですけれども、こういった報告を聞いた、まだ参加をされなかった方々も、今、河合副委員長がおっしゃられたように、秋以降で開始を始めるといったところが出てくるといいなというふうに期待したいなというふうに思います。

なお、この秋の審査結果というのは、来月上旬には公表予定ですので、皆様、ぜひお待ちいただければなというふうに思います。

それでは、最後に、議題4のアクション&レガシーレポートについて、事務局のほうから御説明お願いいたします。

○藤田部長 それでは、資料の4、アクション&レガシーレポートについて（概要資料）、こちらを御覧いただきたいと思います。

めくっていただきまして1ページ目、このアクション&レガシーレポートは、先ほど少し御説明させていただいたアクション&レガシープランというものがございまして、これに対する結果をまとめると、こういうこととございます。

本日、皆様にお伺いしたいのは、このアクション&レガシーレポート策定に向けて、各章の構成や記載内容を具体化した概要資料に対して、皆様の御指摘や御意見を幅広い観点から頂戴したいということと、今後これをまとめるについて、どういう視点、まとめ方があるかということ、あと、今後の公表方法等についても少し御意見をお伺いしたいと思っております。

2ページ目を御覧いただきたいと思います。

これが全体構成でございまして、最初、御挨拶、はじめにがございまして、5本の柱でありますスポーツ・健康、街づくり・持続可能性、文化・教育、経済・テクノロジー、復興・オールジャパン・世界への発信、そして、東京2020参画プログラムと、それから、NIPPONフェスティバル、こういった内容を包含するという予定になっております。

めくっていただきまして3ページ目です。

はじめにの内容につきましては、アクション&レガシーレポートについての考え方を述べた上で、オールジャパンでの取組み、それから、5本の各柱を横断する視点として、参画それからレガシーを共通の理念とし、そして、今後の東京都、国などのレガシーの担い手の取組みへの期待、こういう内容になっております。

本日はアスリート委員会でございますので、第2章のスポーツ・健康のところだけ簡単に御説明いたしますと、この4ページ目でございますけれども、これがそのままレポートになるわけではございませんけれども、あくまで概要のイメージであります。

基本的な考え方としては、「スポーツの力でみんなが輝く社会の実現に向けて」です。「スポーツには、世界と未来を変える力がある」という大会ビジョンのもと、「スポーツの力」を活かし、誰もが自分の持つ力を発揮して、みんなが「輝く」（活躍することのできる）社会を目指す、これが基本的な考え方でありまして、これに基づきまして、レガシーコンセプトとしては、このマトリックスを御覧いただきたいと思いますが、3点あります。1点目が、誰もがスポーツを「する・観る・支える」社会の実現、そして、アスリートが活躍する社会の実現、最後にパラリンピックを契機とした共生社会の実現と、この三つのレガシーコンセプトのもとに、どのようなアクションが結果として行われたか、そして、その実績、成果はどういったものだったか、そして、それに基づくレガシーはどのようなものが考えられるかということをもとめたのが、この一覧表でございます。

この表の内容を御覧いただいて、少し本日、御意見を賜ればというふうに思っております。

また、今日はお時間の限りもございますので、後日、事務局のほうに御意見を寄せていただいても結構でございます。

最後に、5ページ目でございますけれども、このアクション&レガシーレポート策定に向けたスケジュール等についてですけれども、本日の専門委員会での御指摘や御意見、また、大会における実績や評価等を付加して全体の文案を作成いたします。

それから、2020年の10月、大会終了後を目途に、各委員長、各委員に持ち回りで文案の御確認をいただきたいと思っております。

そして、11月から12月ぐらいを目途に、アクション&レガシーレポート、これを公表いたします。日本語と英語と両方を作成します。具体的な公表媒体、方法等については、別途検討いたします。

なお、アクション&レガシーレポートの最終確認の進め方については、各委員長と別途

御相談をさせていただきたいと思います。

先ほどのワーキンググループ1でお話ししたとおり、このアスリート委員会自体の活動報告をその前に取りまとめまして、その内容のエッセンスをこのアクション&レガシーレポートのほうに入れ込んでいきたいと、このように考えております。

説明は以上です。

○高橋委員長 ありがとうございます。

ただいまの御説明について、御意見がございました方はいらっしゃるでしょうか。

今、こちらの計画のほうを皆さんに御説明いただいたんですけれども、藤田さんがおっしゃったように、何か御意見がございましたら、また、今ではなくても結構ですので、ぜひ御意見をお寄せいただきたいなというふうにも思います。

この委員会の前にも、ワーキンググループのほうで今までしてきたことを、本当にたくさんの方の意見や経験を踏まえての話し合いもございましたし、そちらのほうもまとめていただきまして一つ作成していただいて、またそこから、ここで委員会は終わりますけれども、ワーキンググループ等々は続いていきますし、この2020年9月までのしっかりとした取組みというのも反映させていただくことも大切だと思いますので、今後、また同時にそちらのほうの活動をしながら、作成のほうに皆さんの御意見を頂戴できればなというふうにも思っております。よろしく願いいたします。

何か御意見はありますか。

はい、お願いいたします。

○森会長 本当に伺っているだけで、よくこれだけ、5年間ですか、よく頑張ってやっていただきました。お礼を申し上げます。

司会の高橋さんの横におりますと、いかにもマラソンの選手だなと。とんとん、とんとん、とんとん、とんとんと進んでいきまして、時間もしっかり守っておられてお礼申し上げます。

○森会長 どうも僕が見ていると世間の風潮はだんだんけがをしないようにスポーツをやらせない流れになってきている。それをアスリートやオリンピックの皆さんが、スポーツの良さを一生懸命に子どもたちに教えているのが現状じゃないでしょうか。

だから、恐らく皆さんが行かれて喜んだと思うんですよ、子どもたちは夢に見た人が目

の前にいるわけだからね。だから、このアスリート委員会は、オリンピックのためのアスリート委員会だけれども、皆さんのこういう経験を、これから後、どういうところがレガシーとして引き継いでいくのか。どこかでやっぱりせつかく参加してくれた皆さんが、これで終わりだということじゃなくて、これから後、子どもたちに、どうスポーツを理解させて勧めていくかということ、ぜひ検討していただいて、むしろ、今後こういう組織というのは必要だから、高橋さん、引き続き、二、三十年、委員長をお願いします。

○森会長

昨日のマラソンを御覧になった方はいますか。涙が出てきたね、最後を見ているとね

○高橋委員長 道下美里さんですね。

○森会長 道下さん、すばらしい笑顔でしたね。

ああいうのを見て本当に、すごいなとみんな思うよ。あと、上山委員と同じ競技の森ひかるさん。東京出身だけど、トランポリン競技のため、金沢で生活しているんですね。私は石川県のトランポリン協会の会長をしていたので良く知っています。

みんなやっぱりそういうアスリートを見て憧れる。アスリートが一生懸命スポーツをする姿を見せたい。子どもたちが家に閉じこもっちゃうことも多いなか、その殻をやっぱりぶち破っていくのがアスリートだと思うね。そういう誘導をしていただきたいと期待しています。

○高橋委員長 はい。皆さん、肝に銘じていただいて。オリンピック・パラリンピックで皆さんの活動は終わりではなくて、それから先もアスリート委員会のプライドを持って、それがレガシーとして続くと思いますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。

以上で予定しておりました議題は全て終了いたしました。

それでは、遠藤会長代行からも一言お願いしてもよろしいでしょうか。

○遠藤会長代行 どうも皆さん、御苦労さまでございました。

今、森会長から話がありましたので、もう後は必要ないかなと思いますが、しかし、これだけ、今、5年半の活動報告を見て、ボランティアでこんなに皆さん活躍していたのかなと改めて感謝を申し上げます。

先ほど話があったように、オリンピックのためのオリンピックの機運醸成ということが目的ではありますが、同時にやっぱり、アスリートの皆さん方がそばに来て一緒に遊んでくれたり、あるいは、フラッグツアーをしたり、そういうことがスポーツに対する関心



を持たせてくれますし、そのスポーツの持つ力をなお一層広めてくれるなど改めて感じておりました。

また、ワーキンググループ2の皆さん方のアスリートならではのいろんな意見とか、また指導があって、一つ一つ整備が進んできました。

あと172日、パラまでは204日ということですが、過般のマラソンだったり、また今回のコロナウイルスだったり、サイバーセキュリティだったり、まだまだ終わるまで課題がありますが、ぜひ皆様方の御協力をいただいて、このオリンピック・パラリンピックを大成功に持っていきたいと。

同時に、先ほど来皆さんからありましたように、これが終わりではなくて、その後の日本のスポーツをどうしますかというのが、実はこのオリンピックの一番大きな課題でありますから、引き続きアスリートの皆さん方に御協力いただいて、そして、スポーツの持つ力で地域を活性化したり、あるいは、場合によっては国際貢献をしたり、そんな大きな力がありますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

11回、これで終わりということではありません。これからまだまだ続きますから、ぜひよろしくお願ひいたします。どうもありがとうございました。

○高橋委員長 遠藤会長代行、どうもありがとうございました。

では、冒頭に森会長からの御紹介があったとおりに、このアスリート委員会の中からJPCの委員長になられた河合さん、そしてオリンピック・パラリンピック選手村の副村長になられた田口さんから、2人にせっかくですので意気込みを聞いて終わりにしたいと思ひます。

○河合副委員長 ありがとうございます。1月1日付でJPCの委員長という形で今は常勤で仕事をしております。先週、同じく日本代表選手団のパラリンピックのほうも団長を仰せつかりまして、大会の成功に向けて取り組んでいます。

アスリート委員会で皆さんと培った知見もそうですけど、ネットワークを含めて、アスリートセンターでの組織づくりというのが、私に課された一つのJPCをよりよくするために、アスリートの声をどう反映して、そして、2020年の大会以後につなぐかということが、私自身に今課されている大きなテーマと思ひていますので、これからも皆さんからもいろいろ教えていただきながら、しっかりとパラリンピックムーブメントを広げていくためにも勉強していきなたいというふうにお願ひしております。

先日もオリンピックの福井団長ともお会いしまして、福井団長が盛り上げてくれた大成

功のバトンを私が受け継いで、しっかりパラリンピックが終わったところでちゃんとゴールできるように、大会の大成功に向けてともに頑張ろうという決意をしたところでございますので、ぜひそのためには及川ヘッドコーチの頑張りが重要だなどここで言うておきながらなんですが、一緒になってみんなとともに頑張ろうと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

ありがとうございました。

(拍手)

○高橋委員長 それでは、田口副村長、よろしくお願いします。

○田口委員 ありがとうございます。

実はこの後、17時15分から記者会見に出てくるんですけども、そこで発表になるんですけども、まず先ほど申し上げた、この最初の第1回のアスリート委員会のときに、私たちパラリンピアンのアスリート委員が、結構、今までのちょっと困ったこと、こんなのが困りました、こんなのが困りましたばかりを結構みんな言ったんですね。そのときに、オリンピックの人と、あと、組織委員会の方々がおっしゃってくださったのが、パラリンピアンに合わせれば、選手村とかもみんなうまくいくんだから、わざわざオリンピックが終わった後にパラリンピックのために変えるのではなくて、パラリンピアンたちの意見を大事にしましょうよと皆さんが言うてくださって、ああ、この方たちと一緒に、アスリート委員と一緒に、皆さんと組織委員会の方々とやっていけるのは、すごく何かうれしいなと思ったのを覚えています。

ですので、皆さんと一緒にいろいろ意見を出し合った選手村で、私は副村長として、ハード面もちろんですけども、ソフト面で選手の皆さんやスタッフの皆さん、皆さんがやっぱりコンセプトである全員が自己ベストを出せる、そういう雰囲気と、あとは場所とか状況とか、いろんなものを、ほかにも副村長、あと、村長代理、皆さんいらっしゃいますので、みんなと協力していきたいと思えますし、ぜひ、皆さんもいろんな意見があれば、こういうのがあったよとか、いろいろ教えていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(拍手)

○高橋委員長 ありがとうございました。

それでは、最後に、事務局のほうから事務連絡のほど、よろしくお願いいたします。

○藤田部長 皆さん、本日はどうもありがとうございました。

3点ございます。

1点は、追加の御意見につきまして、本日は時間が限られておりましたので、事務局のほうに後でお寄せをいただければというふうに思います。

また、資料及び議事録の公開につきましては、お配りしております資料と議事録につきまして、後日、組織委員会のホームページで公開をさせていただきたいとと思います。

あと、プレスブリーフィングについては、本日は記者の皆様に最後まで傍聴いただいておりますので、プレスへのブリーフィングは行いません。

以上でございます。ありがとうございました。

○高橋委員長 ありがとうございました。

それでは、第11回アスリート委員会はこれで終了とさせていただきます。時間を少し押ししてしまったこと、また非常に駆け足になったことを御了承いただければと思います。

どうもありがとうございました。